

発行責任者：田中正剛

〒662-0854 西宮市櫛塚町1-14 光永ビル2F

TEL 0798-22-5172 FAX 0798-34-8353

第4号

**27才の志をいつまでも忘れず
行動し続けます。**



西宮市議会議員

田中まさたけ (28才) 市政報告

◆初当選から1年。これからも提案する政治を心がけ行動します

西宮市議会は6月定例会から新しい年度が始まり、9、12、3月と1年間に4回の定例会がそれぞれ約1ヶ月間開かれます。昨年4月に初当選させて戴き、ちょうど一回りの議会を経験しました。西宮市が課題を山積みにしながら危機的な財政難に追い込まれている中、この1年間、「今、行政が果たすべき役割は何なのか？」を常に考えてきました。限られた財源の中で、何十年も前に行政が主導して行わなければならなかったことをいまだ続けながら、時代の変化と共に生まれた新しい行政ニーズも満たそうと努力しているのです。当然、これには物理的に限界があると思います。つまり、民間事業者やNPOがサービス内容を保ちつつ、より安価に提供できる公共サービスや業務は民間にゆだね、浮いた財源で新たなニーズを満たすという方向転換を必要としているのです。行政の果たすべき役割は、民間で出来ることと出来ないことを見極め、民間で出来ないことを常に選択しながら行うことだと考えています。そして、こういったことは財政難だから考えることではなく、税金を預かる行政は常にこのことを意識して税金の使い道を決めていくべきなのです。財政難というピンチを発想の転換を促すチャンスと捉え、議員活動2年目も「提案する政治」を実行します。

◆27才の志＝市政の活性化のために走り続けます

この1年間、私の最大の目標であった財政難の克服に関しては、前号でもご報告したとおり道筋を示したことで、財政改善計画を策定するところまでこぎつけました。これからが正念場です。その計画を実現させるための政策を提案し、実現に向けて頑張ります。

また、選挙の際に「市政の現状を常にご報告します。」とお約束いたしました。議会が終わるごとにこの活動記を発行し続け、市政の活性化のために行動し続けます。

議会報告

◆3月議会で平成16年度予算を審議

3月議会では、通常の本会議や常任委員会での審議に加えて、予算特別委員会が設置され、西宮市一般会計並びに特別会計の平成16年度予算を認定するための審議が行われました。私は建設分科会に配属され、土木局、都市局が担当している分野の予算を集中的に審議しました。

極度の財政難の中、投資的な経費は極力減らされる一方で、固定経費が増大し、全体では、一般会計が約1682億円で昨年度予算より約117億円増加する予算となりました。

歳出（支出）面では、固定経費の中でも大きな割合を占めているのが人件費と公債費（震災復興関連を含んだ借金の返済額）であり、人件費が約364億円と全体の22%を占め、昨年より約100億円も増加した公債費が約433億円で全体の26%を占めています。その他も現状を維持するためにかかる経費が大部分を占めています。また、歳入（収入）面では、税収入はさらに減少すると見込み、その分を財政基金等（いざという時のための貯金）を取り崩してすべて使う予算となりました。これは、三位一体の改革をもろに受け、さらには、震災復興が外面的にはほぼ終了したものの、内面的な影響として財政面に現れた結果と考えられます。さらに今後も、福祉にかかる経費が増大してくると予想されています。こうしたことは大部分が予想できたことであり、私が所属する蒼志会では、4年前から先輩たちが行政改革という形で対策を提案し続け、行政が本腰をあげたのが昨年末。行政改革の効果を今回の予算に反映できるはずがありません。しかし、表向きな予算には表れていませんが、行政経営改革に本格的に取り組むことが決定され、今年度に構造改革と抜本的な行財政改善に本格的に取り組むよう改めて要望し今回は賛成しました。

→予算の内容については西宮市ホームページ (<http://www.nishi.or.jp>) をご覧下さい。

◆大胆な行財政改善策と市役所の構造改革が急務！！

こうした状況を鑑みると、私の最大の目標である大胆な行財政改善は急務であることを改めて実感します。すでに、ちょっと節約すれば何とかなる状況ではありません。政策的な転換点を迎えているのです。これまでの考え方を続けていけば、来年度の予算では赤字の予算を組まざるを得ない状況にまで追い込まれています。市役所の構造改革である「行政経営改革」に今年度から平成20年度までかけて取り組むことになっていますが、それだけでは政策的な対応が遅すぎます。「市役所が出来ることではなく、市役所でなければ出来ないことを行う」という発想で効率化する政策を今後も提案し続けます。

◆建設分科会では、事業の目的と新年度の目標を改めて問いました



大きな組織の中での仕事は、どうしてもマンネリ化を起こす傾向があります。お役所仕事と呼ばれるのもそこからきているのでしょう。目先のことに追われ、事業の真の目的を忘れるようになってはなりません。また、具体的な数値目標をもって事業に臨まなければなりません。そこで、予算を認定するに当たって、そのことを再認識してもらうために、これまで継続してきた事業についての目的と家賃滞納対策等の事業については新年度の具体的な数値目標を質問しました。



政策提案

◆積極的なまちの活性化策を！

西宮市は、他市と比べ良好な住環境にあり、震災以後人口は増え続け、45万人を越えました。しかしその一方で、産業は衰退の一途をたどっています。ベッドタウンとして住環境と福祉の向上のみに力を注ぐことができればよいのですが、収入が伸び悩んでいるわが市では自ずと限界が生じてきます。そこで、産業振興策が非常に重要な鍵を握っているのではないかと私は考えています。行財政改善のためには、経費の削減が第一ですが、増収策も大事な要素なのです。ここ数年、西宮市では産業振興策として都市型観光と銘打った事業やブランディング事業、起業家支援事業、その他企業・商工団体への個々の支援等を行っていますが、産業は伸び悩んでいます。不況も原因のひとつですが、それよりもわが市の個々の事業につながりを持たせていない、つまり、やりっ放しになっているところに最大の欠陥があると感じるのです。

そこで市内産業再生のために行政がやるべきことは、これまで折角行ってきた個々の商工政策につながりを持たせ「まちに活気を取り戻す」ことだと思います。そして、産業振興策の最終的な目的は「民が力を発揮できるステージ作り」でなければならないはずです。そのためにまずは、山・さくら・自然浜といった恵まれた自然やわが市の誇るべき文化施設やレジャー施設、洋菓子園遊会や酒蔵ルネッサンスの協力店をはじめとした小売店、古くからある企業からベンチャー企業まで、西宮が持つ潜在力を活かし、それらを連携させることで都市型観光を演出すべきだと考えています。

行財政改善のために、財政難という暗い話題ばかりを強調するだけでなく、こうした前向きな増収策も行政に提案して参ります。

ジェネレーション∞レボリューション～行政改革について4市を視察～

関西圏の若手市議員が集まって、ジェネレーションレボリューションというグループを結成し、昨年の衆議院選挙の前に「選挙に行こう」とキャンペーンを行いましたことは、この活動記第2号でご紹介しました。その後、自分たちの政策立案能力を高めていこうということで、勉強会等も行っています。その一環として、4月下旬に2泊3日の行程で行政改革を中心に、横浜市・志木市・三鷹市・太田市において研修させて頂きました。

横浜市で行われている「民に出来ることは民に」の発想から始まった「民間度チェック」や三鷹市の「行政経営品質評価」、太田市の「自治体版ISO9001の取得」、志木市の「行政パートナーシップ制度」には、私自身衝撃を受けました。わが市の行政改革の遅れを実感するものでした。特に、私が主張している「行政の果たすべき役割」の再確認・明確化が期待できる「民間度チェック」と市民参画を謳っているわが市において真の市民参画が期待できる「行政パートナーシップ制度」については、さらにわが市に応用できるよう研究を重ね、行政に対して提案したいと思います。

研修内容の詳細につきましては、少し遅くなりますが、6月下旬に私のホームページでご紹介する予定です。

